

評価の観点	C-(10) 遵法精神, 公徳心	資料名	仏の銀蔵 (2年生)	実践日時	R1 年度
本時のねらい	銀蔵やお金を借りた人々の心情の変化を通して社会の法やきまりの意義を理解し, 規範意識を高めることによって, 秩序や規律のある社会を築こうとする道徳的実践意欲を育てる。				

<主体的・対話的で深い学びにつなげる指導について>

導入

【手立て①：資料への興味関心を高める導入】

- 自分の身近にはどんな決まりがあるかについて考えさせた。また, アンケート結果をもとに, 自分たちの実態を知った。多くの生徒が「決まりを守っている」と答えているが, なぜ守っているかを考えさせることで本時の内容項目についての意識付けを行った。

展開

【手立て②：考え議論する道徳にするために】

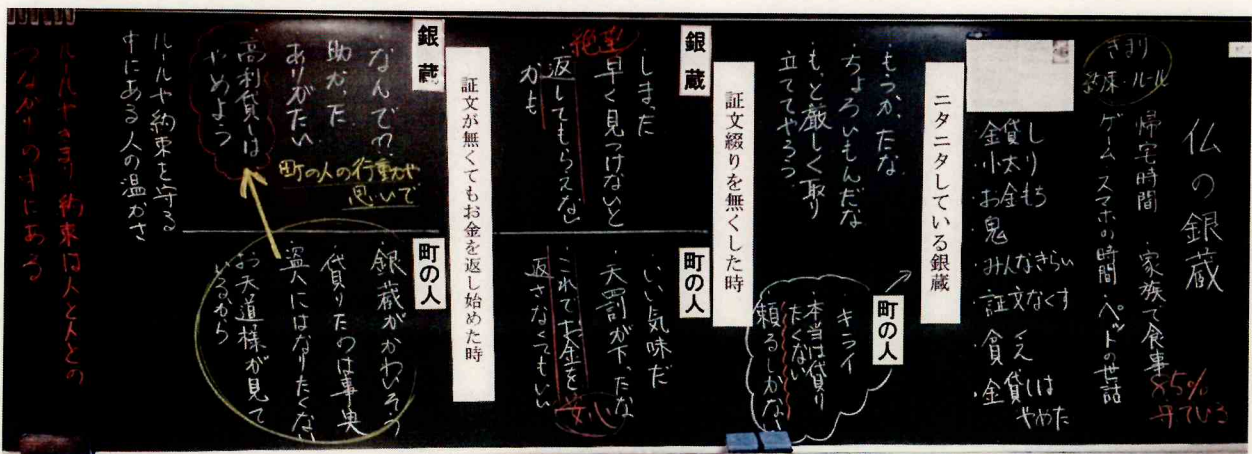
- 銀蔵と町の人的心情を対比し, 多面的に考えさせた。それぞれの立場に立つて考えることで, きまりやルールを守ろうとする行動が, 周りの人の言動に影響を与えていくことに気付かせることができた。そして, 「自分も, 周りの仲間も気持ちよく活動していくために, 自分からきまりを守って活動しよう」と考えた生徒を価値付けた。
- 証文綴りが無くてもお金を返し始めた町の人的心情と, 銀蔵の気持ちを考えさせることで, 銀蔵が変わったのは, きまりの向こうには相手がいる, 尊重していこうと考えたことに気付かせた。

終末

【手立て③：深い学びにするために】

- 導入で問いかけた身近な決まりについて思い起こさせ, 自分の生活に立ち返って考えるようにした。ルールや決まりは, 家族や友達, 人とのつながり, 信頼関係の中にあることを大切にしていこうと考えることができた。

<板書, 生徒の作品, ノートなど>



	基本発問と予想される生徒の反応	指導・援助		
導入	<p>◇学校のきまりを通して、規範意識について考える。</p> <p>○なぜ学校のきまりを守って生活しているのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ルールだから。</li> <li>・学校生活を気持ちよく送るため。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近なきまりについて考えることで、内容項目の意識付けを行う。</li> </ul>		
展開 前段	<p>◇範読を聞いて、登場人物の気持ちを考える。</p> <p>○町の人からお金を取り立て、お金を数える銀蔵の気持ちはどんなものだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・困っている町の人を助けたぞ。</li> <li>・儲かったな。</li> <li>・また取り立てて儲けるぞ。(町の人)</li> <li>・生活が苦しいから仕方がない。</li> <li>・銀蔵に頼るしかない。</li> <li>・なんとか、生活していけそうだ。</li> </ul> <p>○証文綴りを無くした時の、銀蔵や町の人々の気持ちはどんなものだろう。</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>&lt;銀蔵&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・しまった。</li> <li>・返してもらえないかも。</li> <li>・証文綴りが無くても、おそらく、お金を返してくれるだろう。</li> <li>・どんなことがあっても取り立ててやるぞ。</li> </ul> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>&lt;町の人&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いい気味だ。</li> <li>・カラスに感謝だな。</li> <li>・天罰が下ったんだ。</li> <li>・返すのが遅くなっても、大丈夫だな。</li> <li>・これでお金を返さなくてもいいぞ。</li> </ul> </td> </tr> </table>	<p>&lt;銀蔵&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・しまった。</li> <li>・返してもらえないかも。</li> <li>・証文綴りが無くても、おそらく、お金を返してくれるだろう。</li> <li>・どんなことがあっても取り立ててやるぞ。</li> </ul>	<p>&lt;町の人&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いい気味だ。</li> <li>・カラスに感謝だな。</li> <li>・天罰が下ったんだ。</li> <li>・返すのが遅くなっても、大丈夫だな。</li> <li>・これでお金を返さなくてもいいぞ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・銀蔵は、職業としてお金を貸していることや、町の人には、貸したお金を返すように要求していることを確認する。そうすることで、銀蔵はきまりの範囲内で動いていることをおさえる。</li> <li>・鬼の銀蔵と呼びながらも、お金を借りるのはなぜなのかを補助発問として尋ねる。</li> <li>・証文綴りが、お金を借りた証拠になるものであることを確認し、自分が町の人々の立場なら、どのように思うか考えさせるようにする。また、自分が銀蔵の立場なら、どのように思うか考えさせる。</li> <li>・生徒から出た、町の人々の立場の意見と銀蔵の立場の意見を、対比的に板書することで、それぞれの立場にある葛藤を明確にする。</li> </ul>
<p>&lt;銀蔵&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・しまった。</li> <li>・返してもらえないかも。</li> <li>・証文綴りが無くても、おそらく、お金を返してくれるだろう。</li> <li>・どんなことがあっても取り立ててやるぞ。</li> </ul>	<p>&lt;町の人&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いい気味だ。</li> <li>・カラスに感謝だな。</li> <li>・天罰が下ったんだ。</li> <li>・返すのが遅くなっても、大丈夫だな。</li> <li>・これでお金を返さなくてもいいぞ。</li> </ul>			
展開 後段	<p>◇議論を通して、ねらいについての考えを深める。</p> <p>◎証文が無くてもお金を返し始めた時の、銀蔵や町の人々の気持ちはどんなものだろう。</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>&lt;銀蔵&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・助かった、これで生活していけるぞ。</li> <li>・町の人々の温かさを感じたから、厳しい取り立てはやめよう。</li> <li>・高利貸しはやめよう。</li> <li>・自分もお天道様に恥じない生き方をしていこう。</li> </ul> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>&lt;町の人&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・銀蔵がかわいそう。</li> <li>・貧しいが、盗人にはなりたくない。</li> <li>・お天道様が見ている。</li> <li>・自分の心には嘘をつきたくない。</li> <li>・証文が無くても、銀蔵にお金を借りたことに変わりはないから</li> </ul> </td> </tr> </table> <p><b>【深めの発問】</b> 銀蔵は、町の人々の行動から、何に気付いたのだろう。</p>	<p>&lt;銀蔵&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・助かった、これで生活していけるぞ。</li> <li>・町の人々の温かさを感じたから、厳しい取り立てはやめよう。</li> <li>・高利貸しはやめよう。</li> <li>・自分もお天道様に恥じない生き方をしていこう。</li> </ul>	<p>&lt;町の人&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・銀蔵がかわいそう。</li> <li>・貧しいが、盗人にはなりたくない。</li> <li>・お天道様が見ている。</li> <li>・自分の心には嘘をつきたくない。</li> <li>・証文が無くても、銀蔵にお金を借りたことに変わりはないから</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「盗人にはなりたくない」「お天道様が見ている」という意見が出たら、それはどういうことか補助発問を行う。</li> <li>・銀蔵の気持ちを考えさせる時には、「お天道様に恥じない生き方をしよう」と出たら、これまできまりの範囲の中で動いていたのに、恥ずかしいと感じたのは、何に気付いたからなのかと深めの発問を行う。</li> <li>・ここまでの板書を振り返らせ、銀蔵と町の人々をつなぐきまりには、総合的に見ると、きまりの奥に相互を尊重する信頼関係があることに気付かせる。</li> </ul>
<p>&lt;銀蔵&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・助かった、これで生活していけるぞ。</li> <li>・町の人々の温かさを感じたから、厳しい取り立てはやめよう。</li> <li>・高利貸しはやめよう。</li> <li>・自分もお天道様に恥じない生き方をしていこう。</li> </ul>	<p>&lt;町の人&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・銀蔵がかわいそう。</li> <li>・貧しいが、盗人にはなりたくない。</li> <li>・お天道様が見ている。</li> <li>・自分の心には嘘をつきたくない。</li> <li>・証文が無くても、銀蔵にお金を借りたことに変わりはないから</li> </ul>			
終末	<p>◇価値の一般化を図り、道徳的実践意欲を育む。</p> <p>○今までの日常生活を振り返って、規範意識をもって生活してきたのかを振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校生活のルールや約束は守って生活していたけれど、それは、ただ約束やルールがあるから守っていただけだった。これからは、約束やルールを守ることで生まれる信頼関係を感じていきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仲間の姿を、本時の価値と照らし合わせて価値付ける活動を通して、褒められた生徒は自己有用感をもつことができる。そして、一層「相手を尊重し大切にすることこそ、きまりを大切にすること」という道徳的実践の意欲を生み出したい。</li> </ul>		

評価の観点	C 社会参画, 公共の精神	単元	住みよい社会に (2年生)	実践日時	R2. 7. 17
-------	---------------	----	---------------	------	-----------

本時のねらい マナーがカメラに監視されることについて話し合い。社会連帯の自覚を高め、公共の精神をもって、よりよい社会の実現に努める態度を育てる。

<主体的・対話的で深い学びにつながる指導について>

【手立て①：本時の内容項目の価値についての生徒の実態把握】

・導入で、自己理解を図るために、主題について自分の考えや感じ方を問う発問をした。生徒の現段階での考え方や感じ方を黒板に位置付けることにより、学級の仲間がそれぞれの多様な考えや感じ方をもっていることに気付かせた。また、教師が生徒の考え方や感じ方を把握することで、展開前段での意図的指名や、展開後段での自分の考え方や感じ方の変容の実感を促した。

【手だて②：p4c型の交流を通した対話活動】

・円陣を組み、コミュニティーボールと呼ばれるツールを使い、生徒同士で話し合いをつなげた。教師も対話に参加し、本時のねらいについて深めた。生徒の答えに「わからない」が存在しやすい問いや、多様な感じ方や考え方があることを理解させたいときに有効であった。



・生徒間で自由に話し合いを深めるためには、安心して発言できる環境が必要であり、聞き手の指導が重要である。p4c型の交流がは円形になるため、視線が集中しやすく聞き手の指導がしやすいので、聞き手の姿を認め、仲間の意見を大切にしている内面的資質を価値づけ、話し合いの姿の基本として方向付けた。

・教師はファシリテーターとして、対話に参加しながら生徒の発言を聞き分け、本時のねらいについて深く考え議論できるように、問い返しを用意した。

【手だて③：深い学びにするために】

・自分の考え方や感じ方が仲間の発言をもとに変容した、もしくは、深化されたのかを振り返った。導入での自己や他者の考え方や感じ方と、対話活動を通して理解した内容を比較したり、自分の生活に立ち返ったりするとよいと指導し、自己の変容について考えさせた。自己を振り返る場を10分以上取ることにより、一人一人が社会の一員としての自覚を高め、公共の精神をもって、よりよい社会の実現に努めていこうと考えることができた。

<板書、生徒の作品、ノートなど>

## 1 本時のねらい

マナーがカメラに監視されることについて話し合い。社会連帯の自覚を高め、公共の精神をもって、よりよい社会の実現に努める態度を育てる。C(12) 社会参画、公共の精神

## 2 本時の展開

	基本発問と予想される生徒の反応	指導・援助
導入	<p>○主題名「よりよい社会」とは、どんな社会か自分の考えを話す。【自己理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・誰もが平和。</li> <li>・お金の困らない。</li> <li>・互いに尊重し合える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分からなかったら、分からないと答えさせ、それをしっかりと受け止めている仲間の姿勢を認め、広める。</li> <li>・10～15人ほど指名する。</li> </ul>
展開前段	<p>○教師の範読を行う。</p> <p>○マナーの向上に監視カメラは必要か。【他者理解・人間理解】</p> <p>どちらでもない</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カメラがあるとは知らなかった。</li> <li>・カメラがあっても気にしない。</li> <li>・自分はいつもマナーを守っているので関係ない。</li> </ul> <p>不必要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プライバシーの侵害。</li> <li>・監視しなくても一人一人の意識を高めれば必要ない。</li> </ul> <p>必要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・すべてをカメラで監視する社会は嫌だ。</li> <li>・一人一人の意識には限界がある。カメラでの緊張感が必要。</li> <li>・これからの社会には見られている意識が必要。</li> <li>・不審者対策にもなり一石二鳥。</li> </ul> <p>○「住みよい社会」をつくるために何が必要か。【価値理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・迷惑をかけないだけでなく、積極的に協力し合うことが必要。</li> <li>・お互いが無関心ではなく、全員で創り上げることが必要。</li> </ul> <p>○この社会は一人で生きているのか。(深めの発問)【価値理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・誰もが、社会の一員であることを自覚し、マナーの向上をめざすことが必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大きく3パターンに分かれることが考えられる。本時は自我関与型の授業ではなく、問題解決型の学習なのでその他の意見がでたときには多様な感じ方・考え方があることを位置づける。</li> <li>・無関心な意見に対して、「無関心な態度が一番よくない」などの攻撃的な意見がでることが予想される。無関心に意見を出した生徒が「ああ、自分は間違っているんだ。意見を言わなければよかった」とならないようにするために、無関心について考えている生徒から指名する。そうすることで、後段で「さっきと意見が違うけど…」などの意見の変容を引き出させる。</li> <li>・導入で話した「よりよい社会」について振り返ることを通し、自分の理想のよりよい社会をつくるためには何が必要か考えさせる。</li> <li>・生徒から、深めの発問(生徒が教材を一般化する発問)につながる発言が出たら、「〇〇さんの考え方についてどう思うか」と対話の流れの中で切り返す。生徒間の対話を通して、教材の価値を身近に引き寄せ、自分の生活経験と関連付けて考えさせる。</li> </ul>
後段	<p>○社会の一員だと、自覚したことは今までにありますか。【自己理解】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己理解の発問では、今までの日常生活と関わらせながら書かせる。自分の生活と関連して振り返られている生徒を認めることを通して、そのよさを広めていくことで、道徳的实践意欲へとつなげていく。</li> </ul>
終末	<p>◇教師の説話を聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民ゴミ拾いボランティアに参加した経験を語る。昨年度ボランティア等に参加した生徒がいれば取り上げる。</li> </ul>

評価の観点	A (3) 向上心, 個性の伸長	単元	自分の性格が大嫌い! (1年生)	実践日時	R3. 4. 28
本時のねらい	「自分との付き合い方」を大切にしようとする作者の考えを捉え、自分の持っているよさや個性の発見に努め、それを肯定的に捉え、伸ばしていこうとする意欲を育てる。				

<主体的・対話的で深い学びにつながる指導について>

【手立て①：本時の内容項目の価値についての生徒の実態把握】

・導入で、自己理解を図るために、主題である「自分との付き合い方」に関わって、自分の長所や短所を見つめる発問をした。生徒それぞれの自分の長所と短所を出し合うことにより、学級の仲間それぞれが自分自身の性格をどう捉えているのか知ることができるようにした。また、教師が生徒それぞれの性格に対する考え方を把握することで、価値理解の発問後の自己理解の発問で、自分の性格に対する考え方や感じ方の変容の実感を促した。

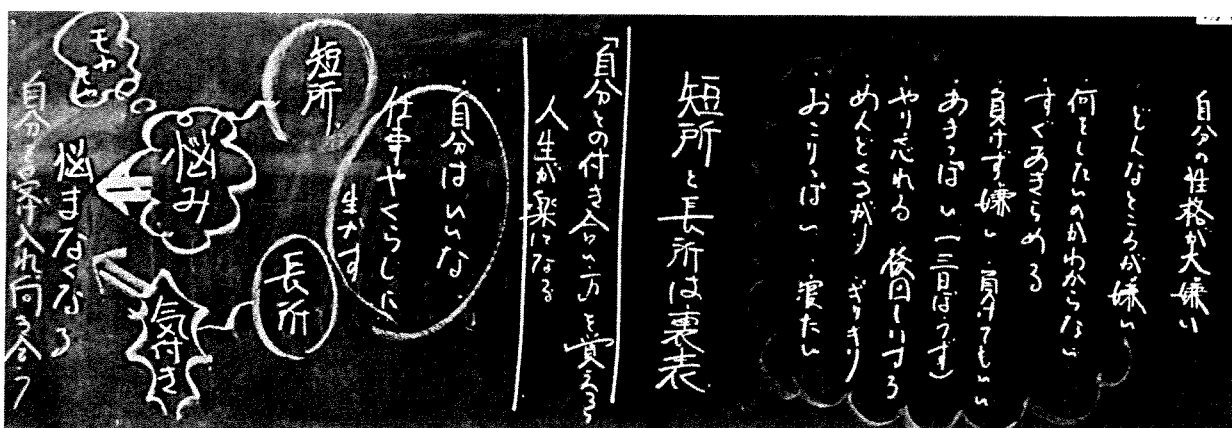
【手だて②：グループでの対話活動】

- ・生徒が自分の言葉で話せる場にするために、グループでの交流を位置付けた。まず、自分で長所と短所を書き出し、長所は短所に、短所は長所に変換してみるという自分との対話の時間をとった。変換しにくいものや、自分では思いつかないものも出てくるので、「わからない」があって当然であることを伝えた。次にグループの中で司会者を一名決め、それぞれの長所と短所をどのように捉えなおすことができるか伝え合い、意見を出し合った。そして伝え合った後、「それって〇〇ということか」などといった質問する時間も設けた。
- ・お互いがじっくり聞き合うことができるよう、グループの仲間で対面し、順番を決めて話し、話す仲間に視線を集中させ、一人一人の意見を大切にすることを価値付けた。
- ・教師もグループでの対話に参加し、自分の長所も短所も肯定的に捉えるという本時のねらいに迫ることができるように、多様な捉え方ができることを促した。

【手だて③：深い学びにするために】

・展開後段では、今までの自分と関わらせながら、自分の考え方や感じ方が、仲間の発言をもとにどのように変容したのかを振り返った。導入での自己や他者の捉え方と、対話活動を通して捉えなおしたことを、今までの自分や今の自分と比較してみるよう伝え、自己の変容を見つめさせた。じっくり自己を見つめることで、自分の持っているよさや、個性を再発見でき、それを肯定的に捉え、伸ばしていこうと考えることができた。

<板書、生徒の作品、ノートなど>



## 1 本時のねらい

「自分との付き合い方」を大切にしようとする作者の考えを捉え、自分の持っているよさや個性の発見に努め、それを肯定的に捉え、伸ばしていこうとする意欲を育てる。A (3) 向上心、個性の伸長

## 2 本時の展開

	基本発問と予想される生徒の反応	指導・援助
導入	<p>○自分の長所と短所ってなんだろう。【自己理解】</p> <p>長所</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・明るい</li> <li>・優しい</li> <li>・声大きい</li> <li>・親切</li> </ul> <p>短所</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・忘れ物が多い</li> <li>・心配性</li> <li>・すぐに飽きてしまう</li> <li>・こわがり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発言できそうなら発言させ、仲間のどんな意見でも受け止めている仲間の姿勢を認め、広める。</li> <li>・10～15人ほど指名する。</li> </ul>
展開前段	<p>◇「自分の性格が大嫌い!!」を範読する。</p> <p>○主人公は、自分の欠点は何だと言っていたか。その欠点や性格をどのように考えているか。【他者理解・人間理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・怒りっぽいところがある。</li> <li>・性格はそうそう変えられるものではない。</li> <li>・怒っていないふりはできるが、直ったとは言えない。</li> </ul> <p>○主人公は、自分の短所や長所をどのように見ることが大切だと思っているか。【価値理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・長所と短所は表裏一体。</li> <li>・自分との付き合い方を覚えておく。</li> <li>・短所の裏の長所を見つけると、短所も受け入れられる。</li> </ul> <p>○「自分との付き合い方」が分かると、何がよいだろう。(深めの発問)【価値理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・短所も受け入れられると、自分に自信がもてる。</li> <li>・悩まなくなる。</li> <li>・自分のことを好きになれる。</li> </ul> <p>○自分のことを考えてみる。長所と短所を書き出し、長所は短所に、短所は長所に変えてみる。【自己理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・頑固⇔自分の考えをしっかりと持っている</li> <li>・口が悪い⇔物事をはっきりと言える</li> <li>・優しい⇔優柔不断</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本文の主人公(私)が自分の欠点にどう向き合っているか分かるところに線を引きながら読むよう伝える。</li> <li>・「大嫌いな性格を放置しておくともますます自分が嫌いになる」という作者の思いを捉えさせ、解決策を前向きに考える作者の姿勢に共感させたい。</li> <li>・生徒から深めの発問につながる発言が出たら、「〇〇さんは、こう考えていたけど、これについてどう思うか」と対話の流れをつくる。生徒間の対話から価値理解へとつなげる。</li> <li>・かけがえのない自分を肯定的に捉え(自己受容)、自分のよさの発見に努め(自己理解)、自分との対話を深めていくように促す。</li> <li>・グループで互いに長所を短所に、短所を長所に捉えなおすことで、他者理解も同時に促してみる。</li> </ul>
展開後段	<p>○今日の資料や話し合いから思い出したことや考えたことを振り返る。【自己理解】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・展開後段では、今までの自分と関わらせながら振り返らせる。今までの自分や今の自分を見つめている生徒を認め、そのよさを広げることで、道徳的実践意欲へとつなげていく。</li> </ul>
終末	<p>○教師の説話を聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会社を設立した松下幸之助の「長所は短所、短所は長所」という言葉を紹介する。</li> </ul>